

たじみん昼話 132

博物館・科学館の敷居は、意外と低い

ききょうは英国のロンドンが好きだ。それは、町中に 200 以上の博物館や科学館があり、大きいところほど入館料がほぼ無料という気前良さがあるからだ。また、映画俳優と教科書に出てくる科学者に関する胸像やアイテムが、町のあちこちに、リスペクトされて雑多に置かれているからだ。

中でも気に入っているのは、大英博物館と科学博物館だ。前者にある展示物は、ハンス・スローン卿が好奇心に任せて、世界中のあちこちから集めてきたコレクションが基礎になっている。ロゼッタストーン等の有名な展示物が迫力満点に展示されているのが特徴だ。しっかり全部見ようとすると、1 週間はかかるほどの展示物の量を誇っている。また、広大な敷地に並べられており、見学には体力も必要だろう。

一方后者の展示物は、薬の錠剤を発明して富を得た、ヘンリー・ウエルカム卿のコレクションが基礎になっている。ここのコレクションは雑多だ。ナポレオンの歯ブラシとかナイチンゲールがはいた靴等、なんでこれを集めてきたのだろうか、というものが多く展示されている。よく見ていないと見逃してしまいそうな展示物が多いのが特徴だ。

博物館のパンフレットや展示物説明板の説明は難解だ。これは、この収集の後を継いだ人が、収集物の共通部分や系統などを丁寧に調査して、後から学問的価値を付けたからだ。これは現在の考古学等の学問体系の基礎になったものだが、ここに「博物館は難しい場所だ」と感じる要因があるのではないだろうか。

しかし、これらの展示物が集められた動機は、好奇心であることを思い出して欲しい。この 2 館に代表される博物館の設立の原点は、「おっ、これ面白いね、珍しいからコレクションにしよう、とりあえず集めよう」という精神にあり、牛乳瓶のふたや石を集める小学生の好奇心や発想と、ある意味同意であることを。

ということは、お高く見える博物館や科学館の敷居は、我々が想像するよりも案外低いと思えないだろうか。 ゴートゥー博物館・科学館。